第74号
平成22年8月

フクタニュース

発　行
(株)フクタ
砕石部

立入検査

採石災害防止月間に合わせ、二戸地区の採石場の立入検査が実施されました。
今回は広域振興局体制となり振興局と県庁の担当者の方、二戸市の担当者の方、そして各事業所から１名ずつ同行し採掘方法や安全対策について指摘していただきました。

（桑原）²

７月２日１５時４０分、厚い雨雲がかかりみるみる外が暗くなった。雨も降り出し、これは強い雨になるなと思っていたら突然前触れもなく窓の外に電光（柱が見えた・・・気がする）と同時に雷鳴。事務所の壁掛け温度計も傾くほどの震動。
そして、停電。一瞬の出来事である。幸い停電はブレーカーが下がっただけで直ぐに復旧したが、トラックスケールの表示は点滅状態でパソコンもプリンターも動作不能である。メーカーに電話して直ぐに点検してもらった所本体側のロードセルもやられているとのこと。
甚大な被害となってしまった。
ご近所でもテレビ等電化製品を中心にかなりの被害があったようである。お見舞い申し上げます。
メーカーによると、トラックスケールの同様の被害は北東北で今年に入って３～４件発生しているそうです。うちには落ちないだろうと侮ってはいけないのである。
ちなみに雷様は菅原道真の怨念で桑原には落ちないことから『くわばら　くわばら』というおまじないができたそうな。

星に願いを

七月といえば、七夕。　元来は中国の節句なのだが、いつ頃からか、飾りつけをし短冊に願い事を書いて吊るすようになった。
月初めから雷被害があり、これは天の神様にちょいとお願いしておいた方がよかろうと笹竹を調達し、子供の頃を思い出し飾り付けをした。なんとなく癒される思いで自己満足している。それにしてもたった笹竹一本になんと願い事の多いことよ。

住めば都

長居の客に帰ってもらいたい時、ホウキを逆さに立てるおまじないがある。そういう意味は全くないのだが修理場に逆さに立てかけてあった竹箒に、キセキレイが巣作りを始めた。人間の傍は『安全』と踏んでの行為か転居のそぶりはみじんもない。どころか卵を３ヶ産んで、すっかりスウィートホームである。ツバメは家の中にまで巣を造り人間と共存していることを考えればおどろくことはないのかもしれなが、人間の目線から見るともう少し閑静な場所もあろうかと思う。環境を変えるのではなく、環境に合わせることが生存の法則なのかもしれない。

※　締切日までに雛が一羽かえっていたが、今朝見たら親も雛も卵もいなくなっていた。
無事の生存を祈るばかりである。

準備万端

２次クラッシャーのマントル交換工事を実施いたしました。クラッシャーは採石業にとっては生命ともいえる主要な機械です。
その中でマントルとコーンケーブリングは、石と直接あたり破砕する部品で、当社では通常２千時間程度で交換します。
また、クローラードリル（発破の為の孔を穿つ機械）のキャタピラを交換しました。
あとは実りの秋を待つばかりです。
準備万端整えて、

安でsite　～息の長い緑化の話～

採石業界の先達に、故石手洗氏がおられる。氏はよく『川原乞食と山荒し』と言っておられた。『砂利採取業』と『採石業』を言い表している言葉として、今でも耳に残っている。どちらも地面にキズをつけることを業としているからだ。
そこで問題になるのが採取跡地の復旧である。特に緑化は根気のいる作業である。採掘地の最終形をイメージしながら日常の作業に反映させていかなければならない。そのためには緑化に対するコスト意識が必要であろうし、適切な価格への転稼も必要となるだろうただの山荒しと言われないように。

お盆休みのお知らせ

誠に勝手ながら下記の通りお休みさせていただきます。
８月13日（金）　～　８月16日（月）

編集後記　とうとう８月になりましたね。『また３ヶ月も過ぎると雪が降るのかな・・』なんて考えの中・・先日、知人とビール祭りに行ってきました。一年ぶりくらいに行ったのですが、
この暑さに生ビールは美味しかった～。やっぱり夏！と感じてきました。　ほ～ら・・飲みたくなってきたでしょ～！！